

<教育利用> ② 8年社会科における生成AIとの対話による思考の深化

単元 日本の諸地域「近畿地方」

単元の目標 近畿地方における現状と課題について生成AIとの対話を通して認識を高め、私たちができる課題解決に向けて提案する。

○生成AI活用のポイント

本実践では、教科書やグループワークから得られる情報を基に生成AIとの対話を通じて新たな視点を得る活用が行われた。検索エンジンとの差別化を図るため、プロンプトに重点を置いた活用を行った。日本マイクロソフト株式会社との協力の下、Bing AIを利用し、情報を得るための生成AIへの入力方法を体験しながら学習が進められた。生徒は生成AIとの対話を通じて一次情報からさらに具体的な情報を引き出し、気付きにくい新たな視点を生成AIから示すことができた。

**○生成AI活用における成果と課題**

本実践では、プロンプトを工夫することで求める情報を的確に得られるということに生徒が気付き、従来の検索エンジンとの違いを知ることができた。また、対話を繰り返すことで生徒が知りたい具体的な情報を得られることが分かった。特に生成AIとの対話を通して、グループ等では生まれなかった新たな価値観を生み出すこともできた。一方で、生成AIの出力する情報を常に正しい情報だと判断し、話し合い等で出された意見より優先している場面が見られた。また、対話を続けることによりエコーチェンバー現象が発生する様子も見られた。そのため、生成AIを多様な考えを引き出すツールだと認識させるとともに、それらの回答を鵜呑みにせず様々な情報と触れ合うことの重要性を継続して伝えていく必要がある。